

草刈 玄教授逝去

草刈 玄（はるか）教授は平成12年3月12日午前1時15分、S状結腸ガンのため、東京都千代田区の警察病院で死去されました。享年64才。近親者のみによる密葬をした後、東京都港区の増上寺において葬儀が営まれ、本学関係者ばかりでなく、全国各界からの多数の参列者が訪れ、故人の冥福を祈りました。

草刈 玄教授は昭和10年10月1日満州国にて生まれ、昭和36年3月東京医科歯科大学卒業後、昭和41年東京医科歯科大学大学院歯学研究科を修了しました。大学院修了後、自衛隊中央病院勤務を経て、昭和42年9月東京医科歯科大学助手に就任しました。その後、昭和46年6月同大学講師を経て、昭和46年8月新潟大学歯学部教授（歯科補綴学第二講座）に就任しました。

草刈 玄先生は、大学院時代の研究テーマである歯間離開度について臨床的基準を明確にただけでなく、それを臨床へ取り入れるべくコンタクトゲージの開発に着手しました。また、最先端の技術を積極的に導入し、特に昭和60年から約1年間文部省在外研究員としてアメリカ合衆国で学んできたことを生かしながら、レーザーやインプラントなどの研究に着手し、後進の指導も積極的に行っていました。その結果、かつて新潟大学歯学

部歯科補綴学第二講座に在籍し、現在他大学の補綴科の教授として活躍している指導者は2名、また草刈 玄先生の指導により新潟大学より学位を取得したものは40名に及んでいます。

草刈 玄先生は近年、歯科学の発展のため平成8年に行われた日本レーザー歯学会を皮切りに、日本レーザー医学会（平成9年）、日本補綴歯科学会（平成9年）、日本顎顔面機能再建学会（平成10年）といった全国規模の大会を次々と精力的に主催いたしました。また、平成11年から日本レーザー歯学会の理事長、日本補綴歯科学会関東支部の支部長として活躍され、学会の発展に多大な貢献をされました。昨年の秋頃からは、体調不良の時もありましたが、理事長あるいは支部長としての任務を最後まで成し遂げました。

以上のように、草刈 玄先生は最後まで現役の教授として職務を全うしておりました。35才という大変若くして教授になり、常に全力投球であったため、少しお疲れになったのかも知れません。今はただ、ご冥福をお祈り致します。

草刈 玄先生、どうか安らかにお休み下さい。

（田口直幸 新潟大学歯学部歯科補綴学第二講座）



追 悼

歯学部長 花 田 晃 治

草刈 玄教授におかれましては、病氣療養中のところ、平成12年3月12日、午前1時15分、大腸腫瘍のために東京警察病院においてご逝去されました。享年64歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

草刈 玄先生は、昭和10年10月1日に満州国でお生まれになりました。昭和36年3月、東京医科歯科大学歯学部を卒業後、昭和41年3月、東京医科歯科大学大学院歯学研究科歯科補綴学専攻を修了され、歯学博士の学位を授与されました。

昭和42年9月、東京医科歯科大学歯学部助手第二歯科補綴学教室に採用されました。昭和46年6月、東京医科歯科大学歯学部講師になられた後、同年8月、新潟大学歯学部教授として赴任されました。35歳、まさに新進気鋭の若き教授の誕生でした。それ以後現在まで冠橋義歯学の教育・研究・臨床に邁進してこられました。

この間にあって、昭和51年から現在まで新潟大学歯学部附属歯科技工士学校講師を務められ、前途ある優秀な多数の歯科技工士を歯科医療界に送り出されました。また、学内においては、平成4～6年には教養部講師を務められました。学外においては、岩手医科大学歯学部および奥羽大学歯学部非常勤講師を、また、昭和54年から2年間および昭和58年から2年間、歯科医師国家試験委員の重職を務められました。

草刈 玄先生は、学内にあっては国際交流委員会委員を長年にわたって務められ、海外にあってはアメリカ、イギリス、スウェーデン、ドイツ、

イタリア、ベルギー、フランス、スイス、ヨルダン、台湾などへの外国出張における講演をはじめ、昭和60年にはミネソタ大学およびカリフォルニア大学ロスアンゼルス校の客員教授、平成7年にはルーマニアのカルロ・ダビラ・ブカレスト医科薬科大学の名誉教授に就任されました。国際感覚をもった教授として多くの外国人留学生の指導に当たられ、優秀な論文をまとめられました。

さらに学会活動としては、日本レーザー歯学会および日本補綴歯科学会関越支部会理事長、日本レーザー医学会および顎顔面インプラント学会理事、日本補綴歯科学会、新潟歯学会、日本歯周病学会および Academy of Dental Materials 評議員を歴任され、広い分野において中心的役割を果たされ学会の発展に貢献されました。

草刈 玄先生が新潟大学歯学部第一期卒業生以来、育ててこられた多くの卒業生は全国各地において臨床医、教育者、行政官などとして大いに活躍しています。また、先生の教室から輩出された教育者のなかでは、岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座教授で歯学部附属病院長の石橋寛二先生、奥羽大学歯学部歯科補綴学第一講座教授の嶋倉道郎先生が活躍されています。

コンタクトゲージの草刈、カントゥアの草刈、インプラントの草刈、レーザーの草刈の名は歯科界にあってこれからも長く語り続けられるものと確信いたします。

草刈 玄先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

歯科補綴学教室教授 草刈 玄 先生を偲ぶ

歯学部附属病院長 河野 正 司

草刈 玄教授には昨年春に体調を崩され、外科手術をお受けになりそのご順調に快復されていたが、3月12日に薬石功無く逝去されました。謹んで哀悼の意を表したいと存じます。

先生は東京医科歯科大学歯学部をご卒業後、同大学院歯学研究科に進まれ、補綴学教室においてクラウンの歯冠形態に関するご研究に集中的に従事されました。ご研究の中では、隣接面歯冠形態の口腔内機能を診断する方法として、歯冠離開度という概念を定められ、これを評価指標として歯冠形態再現法を開発されたことは特筆される1つとして挙げる事が出来ます。この歯冠離開度という概念は歯科医学界全体に広まり、現在では歯冠離開度を測定するコンタクトゲージなしでは、隣接面接触点を語ることはできないものとなっております。このコンタクトゲージの存在により、患者さんの訴えていた食片圧入がどれほど救われたことでしょうか、計り知れないものがありました

よう。

先生は大学院終了後数年を経て、新潟大学歯学部歯科補綴学第2講座の第2代目教授としてご就任なられ、教育・診療・研究に熱い情熱と愛情を注がれ、多くの優秀な教室員を育ててこられました。これらの先生方は各地でそれぞれ大きな活躍をされて、歯学に情熱を込められた草刈イズムの歯科臨床を展開されていたらっしゃいます。まさに先生のご業績でございます。

また、歯学部附属病院における臨床におきましては、早くから金属アレルギー外来やインプラント外来を補綴科内に設置され、高度先進的な医療を推進して、地域医療に大きな貢献を示されていたらっしゃいました。

この様な草刈 玄先生を失うことは耐え難いことではありますが、草刈イズムを引き継がれる教室員がいらっしゃいます。先生には安らかにお眠り下さい。